

中学社会・公民的分野 WorkSheet 共生社会の実現と商品開発

福井県美浜町立美浜中学校 行壽 浩司

中学の実情と基本的な考え方

- ・中学校で社会福祉は公民の社会権のなかで言葉が出てくる程度である。
- ・人権や法の学習だけでなく経済の視点からも取り上げることができるのではないか。

1 バリアフリーとは何だろう？

→障壁（バリア）をなくす（フリー）ための取り組みであることを写真資料から読み取る

予想される生徒の反応

- 「手すりがある」「車いすでも入れるように、入り口が広い」
- 「車いすでも開けられるようにスライド式のドアになっている」
- 「車いすで通れるように段差がない」

→段差がない、手すりがあるとといった見てわかる工夫

2 ユニバーサルデザインとは何だろう？

→誰でも使いやすい（ユニバーサル）デザインの商品であることを写真資料から読み取る

予想される生徒の反応

- 「開けやすいようにピンにくぼみがある」「ふたがデコボコしていて、すべりにくい」
- 「ピン自体が軽量である」「ノートが斜めにカットされていて開きやすい」

→一見、気がつかないような工夫。工夫に気が付かず、当たり前のように使っている。

→消費財についてはデザインが売れ行きにも影響

3 駅に隠された工夫は何だろう？

→初めての観光客にもわかるような表示である。

色覚に配慮した配色になっている

→「ゴッホは色覚異常であった可能性がある」ことから、二つのゴッホの絵を比較する色覚異常は他人には分からない事柄。誰しもがこの社会に対して生きづらさを抱えているのではないか。誰しもが生きづらさを感じることなく生きていける社会を築き上げるのが大切なのではないか。

→「健常者」という共同体の外側に「障がい者」がいるのではない。当事者性が大切。本プランでは、中学生の学習において「自分事」とであるという当事者性をどこまで持たせることができるか。

4 ユニバーサルデザインの商品を開発しよう

* 障がい者問題を政治的問題としてではなく経済的視点から捉えなおす

ユニバーサルデザイン案 (タブレットで作成)

商品開発の分析枠組み

視点	
誰にとって使いやすいのか	
なぜ使いやすいのか	
意識したこと	

→誰もが使いやすいデザインとはどういうものか。

→誰を対象にしているのか、なぜそれが使いやすいのか。

→タブレットを活用してデザインと説明を企画する。(ICTを活用すると授業に参加しづらい生徒も作品作りや、課題に取り組むことができる)

→ユニバーサルデザインを会社として企画することはCSRの視点からも大切。世の中に使いやすい商品を送り出すことで社会全体が向上する。社会モデルとしての「障がい者」を、経済的視点から克服したい。

<まとめ>

「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」「インクルージョン」の概念を踏まえつつ、具体的にユニバーサルデザインの商品を企画するというパフォーマンス課題によって深める。

「健常者」と「障がい者」という線引きではなく、インクルージョン(包括的な社会)を意識することができたかを確認する。